



東北復興 PSW にゆうす

被災地・東北の現在について、岩手県内陸から沿岸を支える活動をしている構成員の方からご寄稿いただきました。長い復興の道のりのなかでのさまざまな「縁」の大切さ、お伝えしていければと願っております。

リレーメッセージ



「岩手からの報告」

(公社) 日本精神保健福祉士協会 岩手県支部
岩手県精神保健福祉士会
副会長 阿部祐太

来年の3月を迎えると、東日本大震災から7年が経過します。私は花巻市の病院に勤務しながら、月1回ではありますが釜石市の釜石こころのケアセンターで住民の方々の相談などを継続して行っています。

地域差はありつつも、岩手ではかつて瓦礫が積み重なったところにも新たな建物が立ち、一見すると津波の影響が見て取れないほど町並みが整った地域も見られるようになりました。しかし、実際の人々の生活には、未だ震災の影響は様々な面に見られます。商業地域の再建は比較的速やかに行われたのに対し、一般の住居の再建は中々進まないことから、子供が自立する等家族構成が変化し、自宅再建という目的を失いふさぎ込む方や、また、幼くして家族を亡くした子供が、不登校や引きこもりという形で再度クローズアップされることが見られるようになっていきます。

被災地では復興に向かって進んでいます。また、時間の経過と共に震災は体験として人々の人生に織り込まれてきました。しかし、だからこそ、震災に起因する人生の変化に対する弱音を周囲に漏らすことができず、辛さを抱え込んでしまっている状況が多くなりつつあるように感じられます。

震災は備えのためにも後世に伝えられるべきことであり、忘れ去られてはいけません。そして、震災の影響による辛さを抱え込んでいる人達の存在も忘れることなく、今後でもできることを考え、かかわり続けて行きたいと思っています。最後にこの場を借りまして、これまで支援に来ていただいた皆さま、各地から応援してくださいました皆さまに心から感謝申し上げます。



碓石岬からの眺め (大船渡市)

★お知らせ★

【東日本大震災復興支援】助成金交付申請募集 (第12期) のご案内

「せっかく継続してきた取り組みなのに、予算が確保できなくなってきた…」
「必要だと思うことだけど、前例がなくて予算が取れない…」 そんな想いや状況はありませんか？

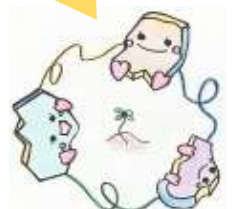
本協会では、東日本大震災復興支援事業の一環として、都道府県精神保健福祉士協会等による復興支援活動の経費を助成しています。詳細は本協会ウェブサイトをご参照ください。

皆さまからのご応募をお待ちしております。

- ☑第12期申請受付期限:2017年11月30日(木) 当日消印有効
- ☑申請方法:「交付申請書」に必要事項をご記入のうえ、本協会事務局宛にご郵送ください。

<http://www.japsw.or.jp/backnumber/oshirase/2017/0904.html>

復興支援委員会では、皆さまとの縁・つながりが深まることを願っております♥



～東北被災地だより（石巻編）～

東日本大震災復興支援委員会 委員長 福井康江

この3月、女川、石巻地域を中心に復興支援ツアーin宮城を開催し、参加者の皆さまには石巻市内に宿泊いただきました。そこから5ヵ月を経つところとなりますが、石巻市の復興の様子を少しお伝えします。

石巻市内には、132の仮設団地があり、昨年の9月には3団地、今年の3月には22団地、この9月には56団地が閉鎖となり、順番に解体が進んでいます。閉鎖期限までに仮設からの退去が困難な世帯の方は、集約拠点団地とされている22の団地に一時転居していただくことになるため、9月末に退去予定となる団地の方々の転居移動がこの夏続いています。

仮設という生活の場。そこを去り、また仮設の生活を始めるということ。それは、また喪失をもたらし、新たな不安と新たな人間関係が始まることにもなります。「また0から」との思いや、なんとも言えない疲労感を抱えていることを十分に理解し、震災から今まで生き抜いてきた経験を尊重しながらこれからもかかわって行きたいと思っています。被災地では“自立再建”というキーワードを謳っていますが、長期入院患者さんへの退院支援の時に何度も何度も考えた“自立”という言葉。今又、同じ想いを感じさせられた夏となりました。

仮設住宅撤去作業中の様子 2017年7月



石巻市では現在約3700戸の復興住宅が建ちあがり、併せて新しいコミュニティが生まれています。今夏、蛇田新立野地区では自治会、住民主体で夏祭りが開かれました。地区内にできたスーパーさん協力の露店が出ていたり、特に若い方や子ども達の生き生きとした姿が印象的でした。「新しく動き出したのだな」と、しみじみ感じる事が出来ました。

★ご紹介★ いただいたメッセージから

「これからの災害支援」というタイトルで、Nさんからメッセージをいただきました！

Nさんは早い時期から被災地に入っの支援実践のなかで、日本全国の多くの、様々な支援者と現場で出会い、まだまだ日本の「絆」も捨てたものではないとお感じになったとのこと。

東日本大震災以降も各地で災害は発生し、これからも発生していくなかで、「これからの災害支援は支援方法を標準化しておくこと」が必要だろうとのNさんのメッセージ。

まさに被災地支援を知る方からの言葉で、支援者にとっても、支援を受ける側にとっても、大切なことだと感じました。

【ご意見・ご感想をお寄せください】

本紙では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しております。全国どなたからのメッセージでも構いません。本紙へのご意見・ご感想も大歓迎です。それぞれのお立場からの声をお聞かせください。お寄せいただいたメッセージは、本紙面や本協会ウェブサイトにてご紹介させていただきます（原則として投稿者氏名以外の個人情報は掲載いたしません。もちろん匿名のご希望も可能です。）。

メッセージ投稿方法：東日本大震災復興支援委員会宛のFAXもしくはE-mail (office@japsw.or.jp)にてお願いいたします。

★☆☆題名に「PSWにゆうすについて」とご記入をお願いいたします。★☆☆

第30号 2017年9月15日発行

発行：公益社団法人日本精神保健福祉士協会 東日本大震災復興支援委員会

〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル7階 TEL. 03-5366-3152 FAX. 03-5366-2993

★URL：<http://www.japsw.or.jp/>

★東日本大震災復興支援サイト <http://www.japsw.or.jp/ugoki/f-jyoho.html>